

広 報

# のほろ

### 主 な 内 容

- いっそうのご活躍を 市功労者・市民表彰受賞者…………… 2 P
- 市街化区域・市街化調整区域が一部変更…………… 3 P
- 末長く共に発展を 登別市・白石市姉妹都市盟約調印式…………… 4・5 P
- 郷土史探訪 86姉妹都市白石市とのゆかりを訪ねてⅡ…………… 6 P

●No. 383 ● 昭和58年11月15日発行 ● 発行/北海道登別市 ● 編集/総務部公聴広報課 ● 印刷/日光印刷



## 今年も色美しく菊花展 市民文化祭、秋を彩る

草庵の夢（小原健一さん）、港蘭の秋（川村啓子さん）、岸の十六夜（松本敬三さん）など、香り高き花——菊の作品が一堂に並ぶ菊花展が今年も11月1日から3日にかけて青少年会館で行われました。

作品は、菊花愛好者の手で丹念に育てられた厚物咲き、管もの、懸崖、小菊盆栽など約300点で、色、形とも美しい菊が会場にあふればかりに並べられ、市民文化祭の秋を彩るにふさわしい行事となりました。

また、第19回市民文化祭もあと美術展を残すばかりとなりましたが、今回は6月にオープンした市民会館がメイン会場となっています。大ホールでのステージ祭、各ホール・活動室での展示会、催しものなど市民会館は、期待どおり登別市民文化の殿堂となりました。

なお、市民会館では11月27日にNHKのど自慢が行われます。みなさん多数のご声援とご協力をお願いいたします。

11 '83  
15

# いっしょのびろろのびろろ活躍を

## 市功労者・市民表彰受賞者

十一月三日文化の日、登別市民会館で昭和五十八年度の市功労者及び市民表彰式が行われました。

これは、長年にわたって私たちのまち登別市の行政及び産業・経済などの各分野で活躍され、本市の発展に貢献された方や、他の模範となる行いをした方の功績をたたえようとするものです。

今年、市功労者として五人、市民表彰受賞者として二十一団体四十八個人が、中浜市長から表彰されました。

受賞者、団体は次のとおり（敬称略、順不同）です。



上田邦男さん



伊藤 博さん



日野謙一さん



須賀武夫さん



河野敏文さん

### 市功労者

- ▽伊藤 博（64歳）Ⅱ市内中央町4丁目3番地12
- 昭和三十四年五月から現在まで六期二十年間にわたり議会議員として活躍し、その間建設常任委員会委員長及び議会の運営に手腕を發揮。また、都市計画審議会委員、農業委員会委員を歴任し、本市行政の発展に大きく貢献された。
- ▽上田邦男（63歳）Ⅱ市内常盤町1丁目14番地3
- 昭和三十一年から十年間にわたり教育委員長、教育長、教育委員会委員を歴任し、本市における教育行政の基礎を築いた。また、昭和三十一年から八年間商工会長及び昭和四十七年から現在まで商工会議所会頭として、産業の発展に尽力。さらに、登別育英会理事長、登別市社会福祉協議会会長などを歴任し、本市行政及び産業の発展に貢献された。
- ▽河野敏文（68歳）Ⅱ市内中央町1丁目16番地6
- 昭和三十年五月から昭和四十六

### 市民表彰

- 年まで十六年間にわたり議会議員として活躍。その間、副議長を努めるなど、地方行政の発展に努めた。また、人権擁護委員、民生児童委員、共同募金会登別市支会長、登別市社会福祉協議会会長などを歴任し、本市における幅広い分野において貢献された。
- ▽須賀武夫（68歳）Ⅱ市内登別温泉町2番地
- 昭和三十年六月から昭和三十六年七月にわたり、監査委員として市政の適正な執行に尽力。また、昭和四十三年十月から現在まで教育委員会委員として活躍し、教育行政に大きく貢献された。さらに、昭和四十年から現在まで登別温泉連合町内会会長として地域における住民の声を行政に反映させ、また、温泉街における環境の美化に努めるなど、本市行政の発展に貢献された。
- ▽日野謙一（75歳）Ⅱ市内カルルス町14番地
- 昭和十三年四月から三十年間にわたりカルルス温泉小学校校長として、地教育に尽力。また、昭和四十三年八月から選挙管理委員会委員として、公平な選挙の実現に努めた。さらに、登別市社会福祉協議会副会長、民生児童委員、町内会長などを歴任し、本市における教育、行政の幅広い分野において貢献された。
- ▽自治貢献者
- ▽謙田一郎（選挙管理委員会委員）
- ▽室井行雄（同）
- ▽社会貢献者
- ▽阿部昭宣（交通安全指導員）
- ▽山田寿夫（広告美術工、職業訓練指導員）
- ▽和田健二（建）
- ▽石山由男（富岸森林愛護組合長）
- ▽熊谷俊一（登別温泉同）
- ▽古田 茂（上登別同）
- ▽森 武雄（中登別同）
- ▽鹿内正敏（民生委員・児童委員）
- ▽多田亨次郎（保護司）
- ▽草塩ツルエ（同）
- ▽井藤直一（老人クラブ警察会副会長）
- ▽大内正三郎（同千歳クラブ副会長）
- ▽小野寺重之助（同汐見高令クラブ副会長）
- ▽鈴木雄喜（同鷺老会副会長）
- ▽千田ユキ（同老人高砂会副会長）
- ▽高橋カツ（同）
- ▽中嶋 彰（同恵友会副会長）
- ▽長田亀次郎（同東寿会副会長）
- ▽古田栄三（同梅光会副会長）
- ▽上野礼太郎（調理師）
- ▽大村繁夫（同）
- ▽東 廣（カルルススキー場パトロール隊員）
- ▽川上八郎（同）
- ▽安武 円（同）
- ▽南 その（登別温泉婦人会会長）
- ▽（株）登別プリンスホテル（身体障害者の雇用促進に貢献）
- ▽富士工業（株）（同）
- ▽西村食品工業（株）（同）
- ▽教育文化貢献者
- ▽宮武神一（郷土史研究者）
- ▽雨夜和一（同）
- ▽加納虎男（登別川柳社主幹）
- ▽中島ヒサ（池坊華道教授）
- ▽佐藤ハツ（同）
- ▽中浜富美子（表千家茶道地方教授）
- ▽橋本 昇（登別希望子供会会長・登子連体育副部長）
- ▽藤田恭一（陸上競技協会管理部長）
- ▽篤志貢献者
- ▽千葉 啓（公園用地二四七平方メートルを寄付）
- ▽亀田実業（株）（道路用地四〇八平方メートルを寄付）
- ▽登別市消防後援会（消防記念誌発行費として百万円を寄付）
- ▽登別建設協会（市民会館備品購入費として二百万円を寄付）
- ▽（株）藤川組（同）
- ▽伊奈昭夫（同百万円）
- ▽北海道銀行（同百万円）
- ▽（株）東興ブロック（同百万円）
- ▽（株）上田商会（同百万円）
- ▽上田商事（株）（同百万円）
- ▽オール設備（株）（同百万円）
- ▽上田コンクリート（株）（同百万円）
- ▽札幌中央生コン（株）（同百万円）
- ▽函館上田コンクリート（株）（同百万円）
- ▽（株）サンセイエンジニアリング（同百万円及び照明用備品を寄付）
- ▽登別建設協会（災害見舞金として五百四万円を寄付）
- ▽（株）草塩建設（同百万円）
- ▽室蘭信用金庫（同百万円）
- ▽善行者
- ▽八田エミ子（生花奉仕）
- ▽香川 勲（人命救助）
- ▽川西 悟（同）
- ▽沢 文雄（同）
- ▽佐々木憲司（同）
- ▽佐藤典夫（同）
- ▽佐藤藤男（同）
- ▽滝野 浩（同）
- ▽平田 巖（同）
- ▽坊良廣吉（大雨災害における給水奉仕）
- ▽三木田植次（同）
- ▽新日本製鉄（株）（同道路の土砂除去作業）
- ▽登別厚生年金病院（同適切な避難誘導により人身災害を防止）

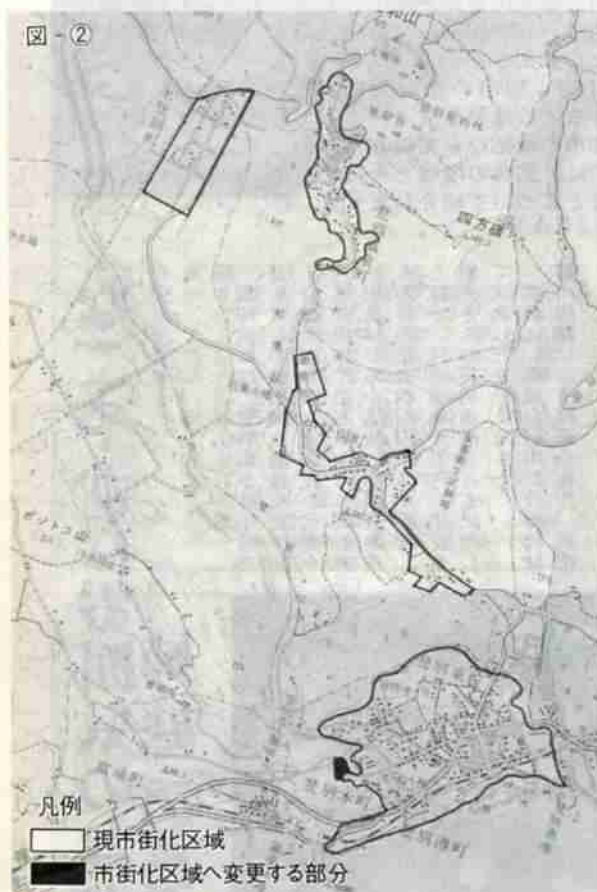


記念写真におさまる受賞者

図-1



図-2



市街化区域の規模(登別市)

	市街化区域	開発予定地
現在	約1,339ha	—
素案	約1,343ha	約69ha

●変更の必要性  
 現在の市街化区域と市街化調整区域は、昭和四十五年十二月二十八日(昭和四十七年十二月二十七日一部変更)に決定され、その後昭和五十四年十月二十二日に第一回目の見直しを行い現在に至っています。市街化区域及び市街化調整区域の区分は、住みよい街づくりを目指し、おおよそ十年先を目安に定めたものですが、昭和五十六年から実施している都市計画基礎調査および将来予測の結果などを考慮し修正変更することになった。

●変更の基本方針  
 現在、定められている都市計画は昭和六十年を目標として計画されていますが、今回の変更案は、都市計画基礎調査および過去の土地利用・人口などを勘案し目標年次を昭和六十五年におき人口規模、土地利用計画などを基礎にして市街化区域の規模が策定されることになりました。(表参照)  
 (公聴会で意見を)  
 道では、十二月五日(月)午後一時三十分から室蘭市胆振地方婦人会館(室蘭市東町4丁目29番1号)2階・大研修室で公聴会を開きます。

この公聴会で意見の陳述を希望される方は、十一月二十八日(必着)までに素案に対する意見の要旨とその理由、住所、氏名を記載し、おおよそ十年先を目安に定めたものですが、昭和五十六年から実施している都市計画基礎調査および将来予測の結果などを考慮し修正変更することになった。

開発予定地とは

あらたに市街化区域に編入しようとする区域は、計画的な市街地整備が確かな区域とされています。これらの計画が十分でない区域について、開発予定地として市街化区域編入を

保留しておき、市街地整備が確実になった段階で、通常の見直し期間(5年に1回)のわくにこだわらず、随時市街化区域に編入できる区域です。

した書面を知事(〒060・札幌市中央区北3条西6丁目・北海道住宅都市部都市計画課)あてにお送りください。  
 なお、知事は公述の申し出の書面を提出された人の中から、公聴会で意見を述べることができる人を定めて、本人にその旨通知します。  
 また、公聴会での傍聴は会場の都合で、先着百八十名で締め切ることがありますのであらかじめご了承ください。  
 ※道素案案、公聴会に関するお問い合わせは、北海道住宅都市部都市計画課(TEL011-231-4111内線2840)または市役所都市計画課(TEL2111内線274)へ。

このような理由で開局が遅れていますが、電波管理局では「まもなく許可が出ますので、しばらくお待ちください」と話しており、民放各社でも放送開始は、クリスマス以降になると予想しています。

このため、開局のための準備ができなくなることから、この期間放送開始が遅れることとなります。

①テレビ中継局が完成すると、発射する電波の周波数(チャンネル)は、郵政省電波管理局の許可が必要です。札幌中継局の周波数は、当初予定したものが静内局のものと同波であったため、混信状態となる問題があり、これをどうするか電波管理局で慎重に審査をしています。

もうしばらくお待ちください

中央地区テレビ難視聴解消

# 市街化区域・市街化調整区域が一部変更になる

室蘭圏(室蘭市・登別市・伊達市)都市計画市街化区域と市街化調整区域の一部を変更することになり、去る十一月十日

付けて道の素案が告示されました。このうち、登別市関係の変更計画案(図①、②参照)の概要と、皆さんのご意見などをお伺いする公聴会(道主催)の開催についてお知らせします。

●変更の必要性  
 現在の市街化区域と市街化調整区域は、昭和四十五年十二月二十八日(昭和四十七年十二月二十七日一部変更)に決定され、その後昭和五十四年十月二十二日に第一回目の見直しを行い現在に至っています。市街化区域及び市街化調整区域の区分は、住みよい街づくりを目指し、おおよそ十年先を目安に定めたものですが、昭和五十六年から実施している都市計画基礎調査および将来予測の結果などを考慮し修正変更することになった。

たものです。  
 ●変更の基本方針  
 現在、定められている都市計画は昭和六十年を目標として計画されていますが、今回の変更案は、都市計画基礎調査および過去の土地利用・人口などを勘案し目標年次を昭和六十五年におき人口規模、土地利用計画などを基礎にして市街化区域の規模が策定されることになりました。(表参照)  
 (公聴会で意見を)  
 道では、十二月五日(月)午後一時三十分から室蘭市胆振地方婦人会館(室蘭市東町4丁目29番1号)2階・大研修室で公聴会を開きます。

# 長く共に発展を



## 登別市・白石市姉妹都市盟約調印式



登別市と宮城県・白石市との間で進めていた姉妹都市提携の話がまとまり、10月26日、白石市の中央公民館で盟約調印式が行われました。

両市の関係は、明治2年、戊辰戦争で敗れた伊達藩の家臣、白石領主片倉氏が家中の武士たちとともに、現在の登別市である旧幌別村に集団入植し、登別市の礎を築いたことに始まります。

以来114年、両市の歴史的な因縁と、その後続く各民間団体などの活発な交流によって、両市民の念願だった姉妹都市の縁結びが実現したものです。

今号では、式典の模様と今後の交流。白石市の歴史や特産物などについて紹介します。

### なごやかな雰囲気の中かで 姉妹の契り

調印式には、登別市から中浜市長をはじめ室市議会議長や岩原商工会議所副会頭など官民の代表十八名が出席。白石市からは関谷宗一市長はじめ小室欣一市議会議長ら各界の代表約百四十名が出席したほか、片倉家第十五代当主片倉信光さんの長男重信さんも出席して式典に花を添えました。



式典は、高橋白石市助役が姉妹都市提携に至る経過を報告。両市長が「相互に産業・経済・教育文化・福祉の交流と親善を深め、両市民の福祉増進と市政発展を図ることを目的として、ここに姉妹都市提携の盟約を締結する」という盟約書に署名、交換してガッチリと握手をしました。

続いて両市長と両議長が「今後は経済、文化の面で市民ぐるみの交流を深め、両市の発展を目指し、光さんのメッセージ、記念講演などが行われ、なごやかな雰囲気の中かで無事式典が終了しました。姉妹都市盟約の祝賀会は、来年四月、登別市で盛大に開催されることになっています。

**登別青年会議所**  
理事長 伊奈信也さん

白石と登別の歴史的なきずなを、我々若者が忘れてはならないという考えで、姉妹JICの盟約を結びました。

物や金が第一の世の中で、我々は歴史の深さや、伝統の重みに飢えているのではないのでしょうか。

姉妹都市盟約を機会に教育文化などいろいろな交流が考えられますが、白石と登別の歴史的なつながりをもとに、心を大切にした精神的な豊かさのための交流を深めたいと考えています。

**心を大切に  
にした交  
流を…。**

**白石青年会議所**  
理事長 上西正典さん

今回の姉妹都市盟約は、白石と登別の青年会議所が姉妹JICの締結をしたことがひとつのきっかけになっており、先んずつつけたというところでJICとして大変意義深く思っています。

これからはJICだけではなく、いろいろな市民団体と共に、市民の立場に立った交流を深めていきたいと考えています。

また、これからの歴史を作る青少年には、活発な交流をしてもらうため強力なバックアップをしていきます。

**青少年の  
交流を活  
発に…。**

# 末長



今にも刀をもった侍が出てきそうな武家屋敷

このような情勢の中での戊辰戦争の敗北は、ますます片倉家を混乱と危機に陥し入れました。そこで旧藩主片倉小十郎邦憲は、家臣の経済的破綻を救い、武家の面目を保持しながら家中の建て直しを図るため、祖先の霊を祀る常英山傑山寺に家臣を集め、大議論の末、北海道への移住を決めました。

ここから登別市と白石市は、深い縁で結ばれてきたのです。

白石市は、蔵王連峰と阿武隈山脈に囲まれた城下町です。その面影を今に残しているのが白石城跡近くの武家屋敷。町中の堀を清流が流れる白石はまきれもなく城下町の風情です。

白石市の城下町としての歴史は古く、白石城の名が歴史上に現われるのは今からおよそ九百年前の寛治二年（一〇八八）、平安末期の頃です。

その後、刈田氏、白石氏、屋代氏、蒲生氏、上杉氏とめぐるし、城主が変り、世に知られた伊達政宗の重臣・片倉小十郎景綱がこの地を拝領したのが慶長七年（一六〇二）のことです。

一万八千石で城主となった景綱は、城の改築と城下町の規模拡充に励み、現在の白石市の基礎を築きました。

以後片倉家は、明治維新までの約二六〇年間十代にわたって白石市を治め、数々のエピソードを残しています。

明治維新期を迎えた白石の城主片倉家は、十一代小十郎邦憲の代でした。

この頃の武士階級の生活は、極度に圧迫されており、白石藩もまた例外ではありませんでした。

武士も非番には必ず畑仕事にたずさわり屯田的な生活をしていたのでした。

白石市は、蔵王連峰と阿武隈山脈に囲まれた城下町です。その面影を今に残しているのが白石城跡近くの武家屋敷。町中の堀を清流が流れる白石はまきれもなく城下町の風情です。



城下町の風情がまきれ  
白石市の歴史

## しろいし伝統の特産物



### こけし

東北の山間部に生まれたこけしは、子供たちと生活をともにする玩具として作られてきました。

東北の素朴な民芸品を代表するこけしには、10系統あり、そのうちのひとつ、弥治郎こけしの発祥地が白石市鎌先温泉の近くにあります。

「この仕事は一生が修業だね」と語るこけし工人の佐藤さんは、36年のキャリアをもつベテラン。

1日に作れるのは、30本が限度です。



### うーめん

白石市内を縦横に流れる用水路は、昔は生活用水として、また製粉工場の動力としての水車を廻し、うーめんの歴史とともに流れ続けています。

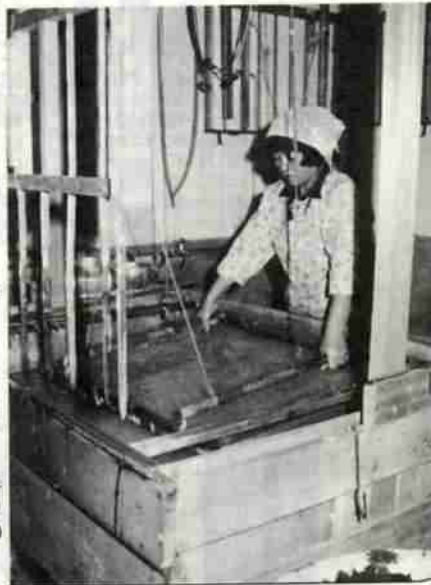
うーめんは、380年前、親孝行な若者が旅僧から製法を伝授され、胃病に苦しむ父親に食べさせたところ、病いがなおり、その若者の心のあたたかさから温めんと名付けられたと伝えられています。

現在は衛生的な近代設備のもとで製造され、乾燥も昔の自然乾燥から人工乾燥となったため、品質の均一化と通年製造が可能となり、年間売上額は約60億円にもなっています。

### 白石和紙

平安時代、紫式部や清少納言が、ちのく紙として憧れた白石和紙。ウソを原料とし、昔ながらの法で造られています。

袋物や札入れなどの和紙細工も盛んです。



# ふれあい 広場

今月のテーマ  
我が家自慢のつけもの

## 大成 焼酎づけ

私がつけものを漬けては十年経ちますが、ただ難しい一言につき、毎年ガツガツしたり「同じ分量なのになぜ？」の疑問に悩んでいます。また、上出来の年は友人や近所に配るといふ喜ばしい余儀なくさせられているものひたすら信じて、朝に夕にふたを取って見たりして……

成功！成功！！この大声に主人いわく「単純バァーカ」。そして食べごろになった。一切れ食べた。うん、漬けてよかった。またまた近所へ友へ義母へ母へと配った。どうぞお試しください。

(賢別町・主婦・佐藤光恵)



私の所では、にしん漬けと朝鮮漬を、ちょうど今頃、秋の終わりに漬けています。

何しろ大所帯なので木の四斗樽に二本づつ漬けますが、食卓での評判は良く、大皿に二つ程出してでも、みんなで一回にべろりと平らげてしまいます。

美味しく漬ける秘訣は、やはり大量に漬けておくことだと思います。それと野菜を大きめに乱切にして漬けておくこと。近頃は、漬け物もスーパーなどで少量づつ手軽に入るので、大量に漬けておく家は少なくなっているようですが、やはり漬け物は、その家々の秘伝の味に勝るものはないと思います。

(桜木町・主婦・大野ユリ子)

名前が焼酎づけ。  
▽材料 大根：25本位/焼酎：一升・25℃位/ざらめ：1kg/塩：おわんに1と2分の1/たくわんの元：2分の1袋  
▽漬けた(いきなり本漬します) ①大根を3日程干します。(歯切れの良いのが好みの場合) ②分量をボール全部に入れてよく混ぜ合わせます。 ③樽に大根を並べ②を全部一掃にかけます。 ④重石をのせます。(かなりの重さの石を2つ程—ゴツです) ⑤水がたっぷり上がったたら石を軽くします。

## 我が家の味を工夫して

私の所では、にしん漬けと朝鮮漬を、ちょうど今頃、秋の終わりに漬けています。

何しろ大所帯なので木の四斗樽に二本づつ漬けますが、食卓での評判は良く、大皿に二つ程出してでも、みんなで一回にべろりと平らげてしまいます。

美味しく漬ける秘訣は、やはり大量に漬けておくことだと思います。それと野菜を大きめに乱切にして漬けておくこと。近頃は、漬け物もスーパーなどで少量づつ手軽に入るので、大量に漬けておく家は少なくなっているようですが、やはり漬け物は、その家々の秘伝の味に勝るものはないと思います。

(桜木町・主婦・大野ユリ子)

## お待ちしています

二月のテーマは、「私の余暇の過ごし方」です。

今日のように複雑化した社会では、人それぞれに世間の喧騒からのがれて一服することが不可欠な自己管理と言えそうです。

それだけに、余暇の過ごし方が大切なものとなってきますが、みなさんは、どのように余暇をお過ごしでしょうか。どんなことでも結構です。お気軽にみなさんのお話をお聞かせください。

▽締切日 1月10日まで  
▽連絡先 電話またはハガキ、封書で市役所公聴広報課へ。(TEL 2111内線222 T05 9103 登別市中央町6丁目11番地)



## 入植当時の幌別郡内図

とところが後継子定の白石残留の旧家臣六百名は、開拓使買戻になることを命じられ、現在の札幌白石町などを開拓することになり、集団移住はその後、絶えてしまいましたが、明治三年第一回から明治五年秋までの移住者八十五戸二百二十七名の多くが登別市開拓の礎石となっています。

彼らの住居は、約七十五坪ほどの草ぶき長屋の共同住居で、これを「お長屋」と呼び、家族間のしきりはすだれ一枚、隣り同志の生活は素通しで悲喜劇も多かったといわれます。

日常の生活にしても殺物を失なつたその間は、鹿狩りに出かけ肉だけ食していたようで、土地の開墾もすべて集团的行動が基本の「農業規約」を作成し、生産物の収納、労働条件など厳しい規定を内容としていました。

困苦を乗り越え、未開の地を永久の地と信じ骨を埋めようとする決意は、明治四年字浜の裏(中央町二丁目千光寺附近)を墓地に選定し、また旧領の中心・刈田郡の刈田神社の祭神を江戸期から会所横にあった妙見稲荷社に分霊合祭し刈田神社(幌別町一丁目)と命名したことに見られます。

「胆振に六領をおく幌別の名あり。」といわれたのが天正十七年(一五八九年)、それから約三百年九十年余、長い歴史の変遷の中で登別市は約六万人を有する中堅都市の発展をみています。

その本格的な開拓が白石城主片倉家および家中の者の確固たる信念と希望、誇りのもとに行われたその偉功は、今日でも輝いてそのあとを導うかたも多いようです。

登別市郷土文化研究会  
宮武 神一記

## 郷土史探訪

86 姉妹都市白石市とのゆかりを訪ねて II

白石城主片倉家主従

「旧臣の一大決心は実に旧臣の名家たるを維持せんとするにあり、また、維新の醜辱をそそいで祖先の名譽に花冠をそえるためにあり」と、常葉山深山寺の大集會は議論の末、北海道移住を決定したのですが、このような精神的支柱こそ北地跋涉派が帰農派に対して絶対的優位を占めたゆえんです。

片倉家北海道開拓の囑願書は、明治二年八月白石按察使府に差し出され、「胆振国幌別郡・右一郡その方支配を仰付候事」として同年九月太政官布告により命じられています。

「旅の宿、雪降る里に年も日もいつか明けぬる春に逢うべき」  
明治二年十一月十三日、白石を出発し片倉景範らと同行した本沢

また、「幌別郡の地たるや………幌別川その中央を流れ蝦夷人家屋が点在し、他の家屋に至りては通行屋と称する本造極ぶきの一家屋と東海林業蔵なる者営む掘立小屋と東海林業蔵のみ………」という状況の中で一行八名が仮寓し、栄蔵の掘立小屋を草圍いして二室に分け、仮開拓所と集会所を設けて移住の下備えをしたことも、日野愛意の「片倉家北海道移住願末」の中に記されています。

第一回の移住は、明治三年六月二十五日、寒風沢を風帆船鳳丸で出航し六月二十九日に十九戸、第二回移住は、翌四年三月石浜港から汽船猶竜丸に乗船し室蘭港に上陸、四月二十一日に二十八戸が幌別に到着しています。

直業は旅の途路、この歌をよみ、四十六日後の十二月二十八日、宿願の支配地である幌別郡に入りました。

到着した片倉景範は、支配人・金兵衛以下十六名の在任者を前に支配地の引き継ぎ趣意書を読みあげる支配地受領を完了し、フシコベツと白老との境に「是より西幌別領。是より西片倉小十郎支配所」などの記入をした高さ約二尺余の三面の境杭をたて境界を明確にしています。

また、「幌別郡の地たるや………幌別川その中央を流れ蝦夷人家屋が点在し、他の家屋に至りては通行屋と称する本造極ぶきの一家屋と東海林業蔵なる者営む掘立小屋と東海林業蔵のみ………」という状況の中で一行八名が仮寓し、栄蔵の掘立小屋を草圍いして二室に分け、仮開拓所と集会所を設けて移住の下備えをしたことも、日野愛意の「片倉家北海道移住願末」の中に記されています。

第一回の移住は、明治三年六月二十五日、寒風沢を風帆船鳳丸で出航し六月二十九日に十九戸、第二回移住は、翌四年三月石浜港から汽船猶竜丸に乗船し室蘭港に上陸、四月二十一日に二十八戸が幌別に到着しています。

とところが後継子定の白石残留の旧家臣六百名は、開拓使買戻になることを命じられ、現在の札幌白石町などを開拓することになり、集団移住はその後、絶えてしまいましたが、明治三年第一回から明治五年秋までの移住者八十五戸二百二十七名の多くが登別市開拓の礎石となっています。

彼らの住居は、約七十五坪ほどの草ぶき長屋の共同住居で、これを「お長屋」と呼び、家族間のしきりはすだれ一枚、隣り同志の生活は素通しで悲喜劇も多かったといわれます。

日常の生活にしても殺物を失なつたその間は、鹿狩りに出かけ肉だけ食していたようで、土地の開墾もすべて集团的行動が基本の「農業規約」を作成し、生産物の収納、労働条件など厳しい規定を内容としていました。

困苦を乗り越え、未開の地を永久の地と信じ骨を埋めようとする決意は、明治四年字浜の裏(中央町二丁目千光寺附近)を墓地に選定し、また旧領の中心・刈田郡の刈田神社の祭神を江戸期から会所横にあった妙見稲荷社に分霊合祭し刈田神社(幌別町一丁目)と命名したことに見られます。

「胆振に六領をおく幌別の名あり。」といわれたのが天正十七年(一五八九年)、それから約三百年九十年余、長い歴史の変遷の中で登別市は約六万人を有する中堅都市の発展をみています。

その本格的な開拓が白石城主片倉家および家中の者の確固たる信念と希望、誇りのもとに行われたその偉功は、今日でも輝いてそのあとを導うかたも多いようです。

登別市郷土文化研究会  
宮武 神一記

拓使買戻になることを命じられ、現在の札幌白石町などを開拓することになり、集団移住はその後、絶えてしまいましたが、明治三年第一回から明治五年秋までの移住者八十五戸二百二十七名の多くが登別市開拓の礎石となっています。

彼らの住居は、約七十五坪ほどの草ぶき長屋の共同住居で、これを「お長屋」と呼び、家族間のしきりはすだれ一枚、隣り同志の生活は素通しで悲喜劇も多かったといわれます。

日常の生活にしても殺物を失なつたその間は、鹿狩りに出かけ肉だけ食していたようで、土地の開墾もすべて集团的行動が基本の「農業規約」を作成し、生産物の収納、労働条件など厳しい規定を内容としていました。

困苦を乗り越え、未開の地を永久の地と信じ骨を埋めようとする決意は、明治四年字浜の裏(中央町二丁目千光寺附近)を墓地に選定し、また旧領の中心・刈田郡の刈田神社の祭神を江戸期から会所横にあった妙見稲荷社に分霊合祭し刈田神社(幌別町一丁目)と命名したことに見られます。

「胆振に六領をおく幌別の名あり。」といわれたのが天正十七年(一五八九年)、それから約三百年九十年余、長い歴史の変遷の中で登別市は約六万人を有する中堅都市の発展をみています。

その本格的な開拓が白石城主片倉家および家中の者の確固たる信念と希望、誇りのもとに行われたその偉功は、今日でも輝いてそのあとを導うかたも多いようです。

登別市郷土文化研究会  
宮武 神一記

# 消費生活講座を 開催します

(昭和58年度 登別市消費生活講座日程表)

開講月日	時 間	講 座 内 容	講 師
12月1日 (木)	13:00~14:00	開講式・オリエンテーション	
	14:00~16:00	家庭用灯油・LPGの需給と価格動向について	石油情報センター担当理事
12月2日 (金)	10:00~12:00	食生活をとりまく不安	(社)北海道消費者協会コンサルタント
	13:00~15:00	台所用品の知識	
12月6日 (火)	10:00~12:00	割賦販売をとりまく諸問題	札幌通商産業局消費経済課課長補佐 梶野 洋一
	13:00~15:00	かしこい消費者になるには	
12月7日 (休)	10:00~12:00	衣料品のかしこい使い方	鶴岡織造製品検査所札幌出張所
12月9日 (金)	10:00~12:00	料理教室(米を使った料理)	管理栄養士 千野 明子
	13:00~15:00	老後の生活設計	日本生命保険協会
	15:00~15:30	閉講式、修了証交付	

市では、物価をはじめ消費生活にかかわる諸問題について知識を身につけ、賢い消費者となるための消費生活講座を次のとおり開催します。お気軽にご参加ください。

▽場所 労働福祉センター  
111内線257

▽対象者 市内にお住いのかた。  
▽募集人員 50名  
▽受講料 無料  
▽申込期限 11月25日まで。  
▽申込・問合先 商工課(Ⅷ⑤2)

## 人権週間12月4日~10日 差別やトラブルのない 豊かな人間関係をつくらう

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である(第一条前文)」

この世界人権宣言が国際連合で採択されて、今年で三十五周年を迎えます。しかし、残念なことに人権にまつわるトラブルは、まだまだ後を断ちません。私たちの身の回りにも、婦人



差別を受けたり人間関係にまつわるトラブルで悩んでいるかたは、お気軽に、札幌法務局室蘭支局(Ⅷ0143/44/6738)または、人権擁護委員にご相談ください。

ご参加ください  
スキーシーズンに  
体力づくり

## 室工大公開講座 スキー教室

室蘭工業大学では、みなさんにスキー活動に親しむ習慣と技術を体得していただくため次のとおりスキー教室を開催します。

▽実施日・場所 59年1月9日から11日までの3日間・北湯沢スキー場、ニセコアンズブリ国際スキー場

▽参加対象 成年女子(健康な方)

▽募集人員 初級教室：20名、中・上級教室：35名(申し込み多数の場合は抽選)

▽申込方法 官製往復ハガキを使用し、往信には教室名(初級か中・上級)、住所、氏名、生年月日、年令、職業、電話番号を



記入し、返信には自分の宛名を記入してください。また、ハガキ一枚につき一名のみ受け付けします。

▽申込期限 12月3日まで(3日消印有効)

▽申込・問合先 室蘭工業大学学務部教務課(〒050 室蘭市水元町27番1号 Ⅷ0143/44/4181内線378)

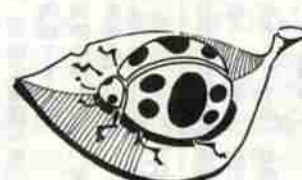
▽しあわせな家庭講座(子と親の心を結ぶ) 12月1日(木)  
▽パート労働教室 12月2日(金)  
※なお、会場は各講座とも婦人センター講堂で行ないます。申し込みお問い合わせは、婦人センターへ。(Ⅷ③3511)

おこしください  
婦人生活講座

大雨災害で延期されていた主婦対象の婦人生活講座が次の日程で行われます。

時間は、各講座とも午前10時から12時までの2時間で、受講料は無料です。お気軽におこしくください。

そうそうそうなんだよ(山川静夫) 学ぶこと生きること(猿橋勝子) 地上を旅する者(大原高枝) 小説上杉鷹山(童門冬二) 上海(林京子) アメリカの証言(日高義樹) 愛しき者へ(中野重治) サハリンへの旅(李恢成) 風の辻(西村望) 犯罪アルバム(安田雅金) 黒パン停屍記(胡桃沢耕司) 風花(斎藤裕子) 医療商人(千浦洋) 住んでみたギリシア(岡田哲也) 核がしの旅(石川巖) いつの日か国に帰らん(松原一枝) 新しい人よ眼ざめよ(大江健三郎) 天の涯に生くるとも(金素雲) 女優(渡辺淳一) 魚の履歴書(末広恭雄) 舶来屋一代(上前淳一郎) 深川通り魔殺人事件(佐木隆三) 桜子は帰ってきたか(麗羅) 虹へ、アヴァンチュール(鷹羽十九哉) 女へんの話(奥野信太郎) 安らかな死のために(若林一美) この時代の(木村治美) 古語俗解(渡部昇一) 雪野(尾辻克彦) 罪灯(佐々木丸美) 漢口慰安所(長沢健一) 鏡の国のアリス(中山千夏) デザートは死(尾崎秀樹) 素人の時代(吉本隆明) パンの家(井上光晴)



新着図書案内  
市立図書館⑤4324

## 年末調整の 説明会

サラリーマンにとって確定申告にかかわる大事な手続き、それが年末調整です。

十二月の年末調整を控え、税務署および市では、会社などでの年末調整事務を円滑に進めていただくため、次のとおり説明会を開催します。

各事業所及び個人経営で給与から源泉徴収を行っているかたはご利用ください。

▽日時 11月22日(火) 午前10時から

▽会場 市役所第二庁舎2階(旧中央公民館)

※詳しくは、課税課へお問い合わせください。(Ⅷ⑤2111内線229)

▽申し込み方法 登別スキー連盟事務局(中央町5丁目・開田医院内)に用意してある所定の用紙に必要事項を記入のうえ11月30日(水)までに申し込みください。ただし、定員になりしだい締め切ります。

▽日程・コース  
○3日コース：1月2日~4日 / 1月5日~7日  
○7日コース：1月8日~2月26日までの毎週日曜日(ただし、2月12日を除く)  
○10日コース：1月10日~3月13日までの毎週火曜日

▽場所 国設カルルス温泉スキー場

▽講習時間 午前10時~午後3時まで

▽申し込み方法 登別スキー連盟事務局(中央町5丁目・開田医院内)に用意してある所定の用紙に必要事項を記入のうえ11月30日(水)までに申し込みください。ただし、定員になりしだい締め切ります。

市民憲章

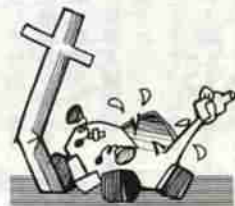
ふれあう心の合言葉

一、自然を愛し力をあわせて、緑と空気を  
と太陽のいつばいあるきれいなまち  
をつくりましょう。

飲酒運転はモラルの問題

ドライバーの皆さん、「まあ、堅い  
こと言わないで、ビール一杯ぐら  
い」などと勧められて、つい飲ん  
でしまったことはありませんか。  
今年の1月～8月に、全国で起  
きた飲酒運転による死亡事故は、  
522件。スピード違反について2

番目に多く、相変わらず「飲酒運  
転」が後を断ちません。  
年末年始は、酒を飲む機会がど  
うしても多くなります。ドライバ  
ーの皆さん、安全運転に心がけて  
ください。



道外出稼ぎを  
希望するかたへ

希望するかたへ

室蘭公共職業安定所では、冬期  
間(十二月から三月)道外出稼ぎ  
を希望されるかたのために十一月  
十四日から十二月十日までの間、  
選考の受付などご相談に応じてい  
ます。

ご希望のかたは、室蘭公共職業  
安定所受付窓口(室蘭市山手町3  
1-2)へおこしください。

なお、選考の実施日程は次のと  
おりです。  
▽日時 12月14日(水)午前9時

健康相談



(58年5月出生児)

▽用意するもの 母子健康手帳、  
パスポート

※婦人センターでの健康相談は、  
午前の部のみです。

定時制生徒を  
募集します

募集します

登別高校定時制では五十九年度  
の生徒を募集しています。  
年間二百四十日前後の登校日数  
で、夕方五時三十分から九時まで

また、転・編入生も合わせて募  
集しますが、願書など詳しくは登  
別高校定時制へお問い合わせくだ  
さい。(TEL 52911)

用される事業場の労働者に支払う  
賃金は、一日三千二百二十一円(時  
間給労働者については、一時間三  
百九十四円)以上としなければな  
りません。

また、別に定められている「北  
海道産業別最低賃金」の各産業に  
該当する事業場の労働者に対して  
は、十一月六日以降、改定された  
産業別最低賃金以上の賃金を支  
払わなければならないので、関  
係の労・使のかたはご注意ください。

北海道身障者  
職業訓練生

北海道身障者職業訓練校  
(砂川市焼山60)では、五十九年  
度の訓練生を募集しています。  
応募資格は、身体障害者、肢体  
不自由者(訓練に耐える程度の聴  
視力障害者を含む)のかたで、義  
務教育を終了または同等以上の学  
力のあるかたです。

無料法律相談

交通事故、金銭貸借、損害賠  
償、離婚など法律問題でお困り  
のかたはご利用ください。札幌  
弁護士会室蘭支部の弁護士二人  
が相談をお受けします。  
相談ご希望のかたは、あらか  
じめ申し込みください。  
▽日時 12月3日(土)午前9  
時から(毎月第一土曜日)  
▽場所 市役所第二庁舎  
▽定員 16人(定員になりしだ  
い締め切ります。)

訂正

11月1日号の私立幼稚園児  
募集のお知らせの中で、次のと  
おり誤りがありますのでお詫び  
して訂正いたします。  
●「登別市私立幼稚園協会で、  
」の文中「昭和五十八年度の  
入園児」となっているのは「昭  
和五十九年度の入園児」です。

市民会館

12月の催し物案内

日	曜日	行事名	場所	時間	料金
1	木	第15回歳末たすけあい (チャリティ)市民 演芸大会	大ホール	18:00 21:00	4000円
3	土	登子連子ども映画会	中ホール	13:00 16:00	3歳~小学生 3000円 小学生以上 4000円
18	日	市民吹奏楽団第3回 定期演奏会	大ホール	14:00 15:30	3000円

※なお、11月23日(水)に予定していた登別大  
谷高校吹奏楽団演奏会は、楽器焼失のため、ご  
了承願います。

● 今月は、市道民税第3期の納期です。